



活動の総評

総評者：事務局員レッド

- 「おこづかい」という身近な題材の調査から、「貧困」につながる格差が、世界のどこかの問題ではなく、身近なところにもあることを気づいたグループが。仮説を設定し、調査し、アプローチを試みるステップがすばらしい。
- 「身近な貧困」をテーマに調査したチームでは、一見おなじ人でも、境遇が異なる可能性があることに気づいたチームがありました。これが、相手を思いやること、すなわち「人権の尊重」につながるとても大切な気づきです。
- 世界の貧困問題を理解したチームが数多くありました。これにより、募金など社会の動きに対する自身の意識や行動がかわるという声も多くあり、まずは「状況を知ること」の大切をあらためて感じました。
また、衣服のリサイクルなど具体的な活動に取り掛かった学校もあり、問題意識をアクションにつなげるサイクルを自分たちでつくるという、素晴らしい成果です。

他の目標と合わせて

- 「食品ロス削減」をめざしスーパーなどでの食品ロスのリサイクルに取り掛かるうとしたチームでは、「大手スーパーやコンビニでの商品廃棄の規制・ルール」の存在を知り、リサイクルが困難であることを知った。よりよい社会にするためには、個人の思いだけではなく、社会や企業のルールを変えることも必要であることに気づいた大切なアクションだったと思います。
- 地域の様々な方の話を聞く、ふれあいを持つ中で、地域の課題を見つけるチームもありました。地域の方の生の声から、SDGsにつながる課題を見つけ出し、イベントを開催するなど解決に向けたアクションを自主的に考える姿はとても頼もしく映りました。
- 大人の指示や大人の補助を前提とすることなく、地域の問題を解決するために、対等に大人（行政・地域・企業）を巻き込んだ活動に取り組むチームもあり、こちらもとても頼もしい活動でした。
- 昨年の台風19号災害に対し、SDGsと照らし合わせて、何ができるのか考えたチームもありました。気候変動が今回のような豪雨を生み出す背景にあり、その対策について、また、被災者の支援のために自分たちができること、それぞれ考えてくださいました。



みんなのSDGs宣言

for EDUCATION 2019

活動の総評

総評者：事務局員レッド

- 飢餓を減らすためには「廃棄」を減らすこと、適切な需要とすることが大切であることに多くの皆さんが気づき、実際のアクションをはじめてくださいました。「飢餓」という一見、我々の生活には遠い問題に対し、自分たちがかかわり、影響を与えていることに気付いたことが活動への大きなモチベーションになったようです。
- 具体的には、食べきれる量を買う、消費期限と近いもとを買うなど、すぐにできる具体的なアクションをはじめた方も多くあり、行動につなげる素晴らしい流れです。
- また、現存する食品ロスを少なくするための店舗向けアプリツールを見つけ出し、それを県内の店舗に導入を働きかけるなど、自分の身の回りから、一步広い社会に向けたアクションに着手する学校もあり、活動の広がりをとても期待しています。



活動の総評

総評者：事務局員イエロー

- 宣言頂いた皆さんからはたくさんの健康と福祉に関わる活動をお寄せ頂きました。多かったのが人の健康寿命に関わること。長野県は平均寿命の長さでは全国でも上位クラスですが反面、健康寿命（心身ともに自立し、健康的に生活できる期間）は中位クラスに位置しています。健康寿命を伸ばすためにはスポーツや生活習慣病を見直すなど様々な取り組みが必要である等、様々な提案がありました。
- 薬物依存やアルコール依存に関するテーマもありました。薬物に関するデータを調べることで、薬物依存の現状を知り、どうすれば乱用者が増えない用対策ができるかを考える生徒さんもいました。
- 交通事故問題による交通事故について考える生徒さんもいました。高齢者ドライバーによる事故が社会問題化しているなか、どのように高齢者をサポートしていくのかを考察していました。
- それぞれ設定したテーマについて、県庁や市役所または修学旅行先のなど様々な現場で生の声を聞き、そこから新たな疑問が生まれたり…活動を通して多くの発見があったようです。



みんなのSDGs宣言

for EDUCATION 2019

活動の総評

総評者：事務局員イエロー

- 様々な教育に関わるテーマが寄せられました。
まずは教育を受ける際の「不平等」について調べ活動した生徒さんたち。
貧困状態にある子どもたちに学習環境を作るにはどうしたらいいのか、という社会問題に焦点をあてたテーマや、世界で教育を受けられない子どもたちが多くいるという世界的な教育問題をテーマとした活動もありました。いずれもすぐには解決できない問題ですが、現実を知りどのように行動すべきか考える大きな機会になったと思います。
- また日本語が分からない外国の児童生徒が増えてきた中でどのような教育をすべきかというテーマもありました。グローバル化が進み、多様な言語に対応した支援をするにはどうしたらいいのか。日本語の指導はもちろん、指導が必要な人に対する理解を深める必要があると感じていました。
- 今回の活動を通して発見、感じたことは、未来につながるより良い教育につながるきっかけになったと思います。



みんなのSDGs宣言

for EDUCATION 2019

活動の総評

総評者：事務局員イエロー

- 男女それぞれの問題点を取り上げ取り組んで頂きました。
性別、年齢での差別のなかで、日本での平等は144カ国中114位と低い順位とまだまだ女性差別が大きな問題であることを知り、日本の順位を上げるには経済参画や政治参画の割合を高めることが重要であると指摘している活動がありました。
- 他にも国際的な目線で「人身売買」「教育の格差」などの問題を取り上げた活動もありました。様々なデータや研究を通して、もっと周りの人達に広め、偏見をなくしていくことが大切だと指摘している活動もありました。
- 日本の育児休暇取得率が他の先進国と比べ極めて低い割合であることを問題として取り上げた活動もありました。男性の社会的地位に関する偏見を取り除くことが第一の目標であるとまとめていました。



みんなのSDGs宣言

for EDUCATION 2019

活動の総評

総評者：事務局員イエロー

- 不法投棄による原因で水質汚濁が進行することを調べた生徒さんがいらっしゃいました。川にごみを捨てるとインクが溶けて有害な物質になったりたばこの吸い殻を捨てるとニコチンが水に溶けて有害になる…家庭から出る生活排水が全体の水質汚濁のうち 60%を占めていることがわかったそうです。ゴミが想像以上に環境に負荷を変えている事実を踏まえ、ゴミ拾いやポイ捨て防止を呼びかける等次の行動に掲げていました。
- また水辺に生息する外来種植物による川の生態系への影響を調べた生徒さんがいらっしゃいました。外来種であるアレチウリがもともと生息していた植物に巻きつき、その植物を枯らしてしまい、環境を変えてしまう影響があることを調べています。駆除活動によりアレチウリが減少し、水辺の環境が保たれることに繋がるそうです。河川や湖などの環境を守る活動に参加し、もっとたくさんの人たちにこれらのことを広めたいとまとめていました。



みんなのSDGs宣言

for EDUCATION 2019

活動の総評

総評者：事務局員ブルー

- 「自分たちの地域で使う（作る）電力は、自分たちで選択する」。発電と売電を切り離した国の政策は、競争を取り入れることで消費者に価格とサービスの向上をもたらしたとともに、「何で作られた電力か」を選択する機会も得たとも言え、国の政策が原子力や化石燃料へ傾向していたとしても、電気を買うことでもその意思表示ができるようになったとも言えます。また、持続可能性の観点からも、消費者が進んで再生可能エネルギーを利用することで、補助金無くとも経営が成り立つようになりますし、価格も抑えられるようになるので、行政に頼るのではなく、継続して意思表示や、行動で示すことが大切だと思います。
- チームが主体となって、無駄な電気の削減する行動をとっていましたが、その輪を広げることで、何倍も大きな効果を生み出すことができます。今後は、無駄な電気の使用を抑制することとともに、電気に頼らない生活を送ろうということを、周知する活動も行うことによってさらに大きな広がりになると思います。



活動の総評

総評者：事務局員ブルー

- 「労働人口の減少」問題については「改善は簡単ではない」という指摘がありました。まさにその通りです。この課題はさまざまなテーマと結びついており、たとえば『働き方改革』『少子化』『女性の社会進出促進』『女性の社会的地位向上』『ニート問題』『富の集中』など多くが挙げられます。解決には多くの壁があり、またそれらを同時に解決していくことが必要なのかもしれません。
- 「ニート」の問題はそれぞれの人達の背景から一様に解決できる問題ではないと考えられます。『学校教育』『それぞれの仕事の重要性和社会的意義を説く』『トライ＆エラーを許容できるシステム』『仕事体験』『転職市場の活性化』『互いを尊重しあう』『日本的雇用制度の改革』『親世代の教育』『心のケア』など、それぞれの対策について社会の受け皿づくりが必要だと思われます。
- 「同一労働同一賃金」というテーマは望む人がいる一方、望まない人もいることも考えられます。これらも含めた多様な働き方に対して、柔軟な対応を企業や社会ができることが重要です。まだ社会人経験のない高校生からこのような問題に目をつけたことは凄いと感じました。
- 「過労死・過労自殺」は様々な要因があると思います。上司や取引先から、または自身が勤勉であることからの自主的なもので…日本固有の習慣が関係していたり人材不足から起こっていたりと様々だと考えられます。法整備や相談窓口を増やす等、行政ができることは限られていますので、企業や地域ぐるみの対応が必要になっていくと思います。
- 以上のことから“働きがいも 経済成長も”の目標達成には他の目標との繋がりが見て取れます。他の目標の達成こそがこの8番の目標達成のカギとなるとも言えそうです。



活動の総評

総評者：事務局員ブルー

- 「他のグループが仲良く活動している写真を撮る」というアイデアはすぐに実行できるし、誰にでもできる活動である点が素晴らしいです。グループワークを行うことも意識の統一を図るのも最も適していて、仲間意識が芽生えやすいものです。さらにプラスして一枚の写真に収めることで、記憶と記録に残り、平等意識が生まれるのではないのでしょうか？人・国への支援もお金やモノの支援だけでなく、人的支援が求められるのは、それが効果的であることの裏付けであるとも言えます。
- 資本主義の限界の表れが「富の集中」だと思われます。有り余る富を再分配することは重要ですが、そもそも集中してしまう仕組み自体に問題があるように思えます。また富裕層の意識の低さも問題であるでしょう。
- 障がい者に対する問題は、障がい者の能力開発や役割分担が適切になされていないために起こっていると思われます。ことに単純作業や、五感のいずれかを駆使した作業などは、健常者よりも障がい者の方が優れていることも多いものです。違いを認め、その違いを生かす社会の実現が、差別や偏見の解消につながると思われます。



活動の総評

総評者：事務局員ブルー

- 長野県外に住む学生の82%は長野へのUターンを希望または検討しているようですが、実際は3~4割にとどまっているというデータがあります。理由の一つに首都圏との所得の差があるようです。画一的な都市化をすすめるよりも長野らしい自然を生かした街づくりを目指すことが有効なのではないでしょうか。行政だけでなく企業も含めた努力が必要ですね。
- 過疎地など交通手段の確保は大きな負担であることは間違いありません。「貨客混載」や「デマンド交通」はその負担を軽減する一策ですが、何か利益を生む仕組みは生み出せないものでしょうか？それには逆転の発想が必要になってくるように思えます。過疎地を走るバスや車が何かを生み出せる、と考えると…。
- 地方過疎化と都市過密化は相反する問題です。ただ、都市を脱出し、田舎で生活したいと願う人はかなり多くいます。そこで地方の空き家問題や担い手不足問題、相続問題などはその解決の糸口にはならないでしょうか。今は行政が主導でUターン・Iターンの促進を図っていますが、民間企業や地域住民、学生などでもできることがあると思います。他の問題解決とも連動させて、複合的な解決法を導き出したいですね。また、各自治体で異なる体裁での情報提供にも空き家対策の障壁になっています。全県、ないし全国的に統一のシステムやサービスが確立されれば、一元的に管理ができる上に、利用者也選択肢が広がり、マッチングのチャンスが増えると思います。
- ポイ捨てはゴミ処理を即座に解決するための手段として取られます。ポイ捨てをすることに罰則を設けても、その隙間をすり抜けようとする人がいる限りなくならないでしょう。ゴミをきちんと捨てること自体は当たり前のことではあります。メリットになる逆転の発想も行ってみたいですね。
- 災害時の電力供給システムは、自然エネルギーの活用とつながります。自然エネルギーの活用が促進されれば、エネルギーの地産地消が図られ、いざというときの災害リスクにも対応できるはずですね。
- 善光寺は過去11回の火災に遭い、また数多くの地震も経験してきました。善光寺は長野のシンボルであり、市民の心の拠り所でもあるので、防災意識は高く持ち、保存に努めていってほしいと思います。消防の訓練や、防火設備、地震への対応に関しては、日本国内でも同様の建造物があったり、海外にはさらに多くの事例があるので、それらを参考により強固なものに努めていく必要があります。
- その他
「SNSなどを活用して、現状の問題点を発信する」とありましたが、公共性の高い問題点を学生や個人などが発信していく意味は大きいと思います。個の集合体がまとまって意見を発信する方法と、同じ意識を持った個が同時多発的にそれぞれで発信する方法は、時と場合と目的に合わせて使い分けることで効果的です。



活動の総評

総評者：事務局員オレンジ

- いろいろなところから感じたことを理由にテーマを選んでいると思いますが、校内などとても身近なところからテーマを選んで行動をするということに気づいてくれた生徒さんは、このSDGsというのは、遠い世界のゴールではなく、自分達にも関係するゴールであるということに気づいてもらえたかと思います。
- 全体にゴミの問題からこのゴールに結びつけている生徒さんが多かったです。ゴールから考えると、つかう責任ということは、買ってから捨てるまで責任をもって行わなくてはならないということに気づいてくれたのでしょうか。
- ある生徒さん達は、資源は無限にないということに気づき、形を変えて利用していく必要があると感想を述べていました。再利用とは、そのままを再度使うということだけではなく、形を変えて利用するということでもありますね。使わなくなったタオルから雑巾を作った生徒さん達もいました。
- エコバッグ調査を実施した生徒さんは、エコバッグを持っている人がほとんどで、その理由として「プラスチックは環境に悪いから」という理由が多く、SDGsの達成に少しでも近づいていっているのかなと感じられたそうです。まだまだの世の中ですが、そういう方たちに会えると自分達のモチベーションにつながりますね。
- 後、日本と世界の食品ロスを調べることで、日本は消極的であるということが分かり、1人1人が意識を高めていかないと食品ロスが減少することはないと思うと述べていた生徒さんもありました。全ての行動に関して言えることだと思いますが、やはり1人1人の意識改革がなされないと、ゴールを達成できないのではないのでしょうか。



活動の総評

総評者：事務局員オレンジ

■ とても多くの生徒さんが、地球温暖化を心配しているのだなと思いました。ということは、日々の生活で感じているということでしょうか。日々の生活で感じられるということは、地球が危機に陥っているということです。

■ ゴールを見据えて、まず、できることが3つに分かれていました。
一つは、まず、環境を守らなくてはいけないということ。環境を守るためにすぐにできることは、ゴミを拾う・節電するということが出ており、それを実行した生徒さんが多かったです。中には、校内パトロールをして、人がいない教室がちゃんと電気が消されていて、とても安心したという感想もありました。
校内でもしっかり実施されていたようです。

二つ目は、気候変動によって多発している自然災害の状況を調べ、災害に対応するにはどうしたら良いのかと具体的に調べていました。そして三つ目は、地球の現状を調査する活動もありました。

現状を知り、その現状にどのように対応していくかということもとても大切なことです。

あるクラスが、地球をもとの状態に戻すには、時間がかかることだと分かった。だから個人でできることはすぐにでも実行しなくてはいけないと危機感を感じていました。

■ このゴールを選んだ生徒さんの多くは、行動することはもちろんだが、しっかり発信していく必要があると言っていました。



活動の総評

総評者：事務局員オレンジ

- 海なし県の私たちですが、このゴールを達成したいと思った生徒さんが沢山いました。
- まず、昨今、問題になっているプラスチックについて取り上げているグループやクラスが沢山あり、海に流れ出る前に街や川のゴミを拾う活動を実施した生徒さん達がありました。ゴミの多さにとても驚いたという感想が多く、今まで通っていた道や眺めていた川ですが、意識が違うだけで、見え方が違ってくるということに気づいたのではないのでしょうか。
- 次に、プラスチックの代用を考えて、入れ物などを制作する生徒さんがいました。プラスチックの代用とは企業が始めていることではあるのですが、私たちにもできることだということを示してくれましたね。
- 調査の段階で、他国や他県を知ること、自分達の現状を知るという活動もありました。台湾では、街のゴミを減らす取り組みとして、マイ箸、マイバッグ、マイボトルを持ち歩き、コンビニではペットボトル飲料を買うことは無いそうです。お店の人にボトルを渡して飲み物を入れてもらうのが普通で、ポイ捨てをした場合は罰せられる法律があるということです。これを聞くと、日本はまだまだ対策が遅れていることは明らかだと、皆さんも感じるのではないのでしょうか。
- いろいろな活動を通して、他の人にも自分達と同じように行動をして欲しいという気持ちが沸き、発信していきたいという想いになった生徒さんが多く、その中のキーワードとして3R（リデュース・リユース・リサイクル）があがっていました。
- 最後に、プラスチックが地球に与える影響は、計り知れないのに元をつくった人間の危機感は低すぎるという感想があがっていました。まさにその通りではないのでしょうか。



活動の総評

総評者：事務局員マゼンタ

- このゴールを選んだ理由に「陸が好きだから」と答えている生徒さんがいました。県の面積の約8割が森林という長野県だからこそ、「陸の豊かさを守ろう」という意識が強いように感じました。
- ゴールを達成するために、自分たちがまずできることとして、学校周辺のゴミ拾いを実施してくださった生徒さんがいました。実際にゴミ拾いをして多くのゴミが落ちているということに気づき、緑豊かな陸を守ろうという意識がより強くなったのではないかと思います。
- ゴミが落ちているのを見つけたら拾うといった毎日の小さな行動の積み重ねがゴールにつながっていくのではないのでしょうか。



活動の総評

総評者：事務局員マゼンタ

- 多くのチームが暴力・虐待をなくすということをテーマとしてあげてくださいました。平和という点から、テーマが3つに分かれていました。
- 1つめは、大人から子どもへの暴力を減らすというテーマをあげてくれた生徒さんがいました。暴力・虐待を減らすには、自分が将来加害者にならないだけでなく、周りのケアや支援が必要だという気づきにつながりました。また、親子の交流会を開き、絆を深めることも大切だと考えてくれた生徒さんもいました。これらの気づきからSDGsの他のゴールと関連づけ、さらに広げていくことができるのではないかと思います。
- 2つめは、学校生活における暴力に注目した生徒さんがいました。自分が加害者にならないだけでなく、自分が被害にあった際はすぐに相談するということを次への行動としてあげてくれました。
- 3つめは、現状を知るということをテーマにあげてくれた生徒さんがいました。自分たちが住んでいる地域の虐待の現状を調べて、気づきにつなげてくれました。また、児童虐待をなくすために、オレンジリボン運動や、すぐに相談できる環境づくりに注目してくれた生徒さんがいました。
- 自分たちがすぐにでもできる対策をしたり、現状を知ってもらおう対策・活動をしたりしようという行動は、自分たちができることから少しずつはじめようという思いにつながっていると感じ、とても素敵だと思います。
- また、「公正」という点で、「すべての人に服を届けよう」という目標をあげてくれた生徒さんがいました。その中で、SDGsに貢献できることを自分たちで考えて実行に移すことは大変だけど大切なことなので続けたいと答えてくれた学生さんがいました。
「SDGsは大切なこと」だと感じてくれた学生さんがいてくださりとてもうれしく感じました。



みんなのSDGs宣言

for EDUCATION 2019

活動の総評

総評者：事務局員マゼンタ

- 自分たちが取り組んでいる「SDGs」とは何か、SDGs そのものを知ってもらうために情報を発信しようとしている生徒さんたちがいました。その中で、上級生が行っている活動を下級生に発表し、興味を持ってもらうという取り組みは、まさにパートナーシップで目標を達成するという形だと思いました。
- また、校内だけでなく、他の小・中学校に知ってもらうためのポスター制作も行うということも自分たちのできることから SDGs に取り組もうという思いが感じられてとても素敵だと思います。
- 次の行動として学校の中に広めるだけでなく、外に広める活動をしたいと答えてくれた生徒さんもいました。
- まず、自分たちの身近なところからパートナーシップを築いていく姿は、SDGs を少しでも身近に感じてもらえるきっかけになるのではないのでしょうか。